

人権講演会 アンケートより

8月9日(日)、プロフィールアスケーター鈴木明子氏「ひとつひとつ、すこしずつ」講演会アンケートに感想をいただきましたので一部をご紹介します。

◎60代 女性

生きていくということをどう考え取り組んできたかという具体的なお話でした。なかなか語らない内容なので、とても楽しかったです。共感するところ、新しい見方、いろいろ教えてもらえて良かったです。

◎50代 女性

「心にすき間を!」「楽しむこと」「一歩一歩前へ」いいお話でした。パワーをもらいました。

◎10代 女性

一回病気になったのに病気を治して6歳から始めたフィギアスケートをもう一度して復帰できたのは、まわりの人と、一番は、明子さんの

もう一度フィギアスケートをしたいという気持ちがあったからできたんだと思いました。私にも夢があつて明子さんの話を聞いて頑張ろうと思えました。

◎30代 女性

鈴木さんのお母さんの「人より倍やれば絶対できる」という肯定した前向きな声かけの言葉は、子どもにとつては、さらなるやる気につながるのでもいいなと思いました。やりたいことを望むようにやらせてあげることが、楽しさにつながり、人生に大きく影響する

と感じました。それと鈴木さんの物のとらえ方がすばらしいと思えました。



県外研修に参加して

理事 西井弘子

立命館大学国際平和ミュージアム(みて・かんじて・かんがえて・その一歩をふみだそう)の研修に行つた。

見学コースは、地階・平和をみつめて。一階・平和をしらべる。二階・平和をもとめてへと進んでいく。「音声ガイド」も備えてある。

戦争の実態を通して、平和な世界のために何をしなければいけないのか。何ができるのかを考えさせられた。

特別企画展示(無言館 いのちのアトリエ、被爆画学生の絵展)では、戦争が激化する中それでも芸術へのひたむきな情熱を失わなかった画学生の作品をみた。故郷の山河やごく身近かな愛する人々が描かれている。その鮮やかな故郷の色、人を愛する心の色は、かけがえのないかれらの生命の証として伝わってきた。

一階ラウンジの東西の壁面に、手塚治虫氏の陶板「火の鳥」が飾られている。銀のものは過去を、金は未来をあらわしているという。「ムツちゃんの平和像」(結核症の少女が防空壕に隔離され忘れられなくなつ

た)もある。

その場に静かに身を置いた。そして我々は「一度と戦争は起こさない」という誓いを日本国憲法前文および憲法9条を通して確かなものとしていく努力が必要だと痛感した。

平和は与えられるものではなく、創造していくものであり、国民一人一人が大事にされる世の中であつてほしい。そうあるべきだと改めて思った。

お知らせ

◎10月16日(金)、人権特設相談所を開設いたします。

場所/金屋文化保健センター
時間/13時~16時

相談は無料で秘密は厳守されます。お気軽にご相談ください。

■人権に関する問い合わせ

有田川町教育委員会 社会教育課

TEL 52-2111
FAX 32-4827